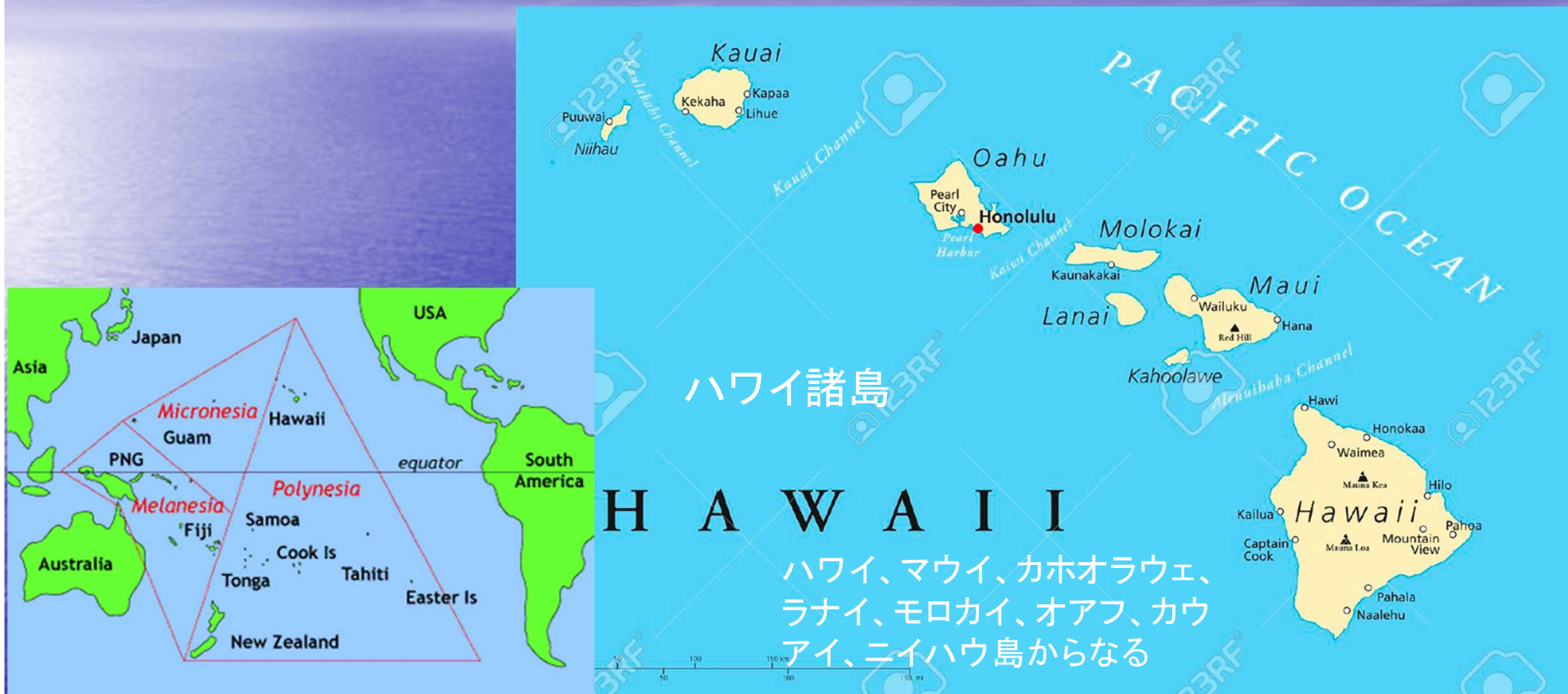


ハワイのダイバシティ社会と日本人— 歴史・現状とアイデンティティ・信仰をめぐって



岡本雅享・池志保・藤澤健一

研究課題

＜＜ハワイ大学マノア校との学術交流・教育連携の継続的发展＞＞

- ・福岡県は、沖縄、広島、山口、熊本県と並ぶ米国ハワイ州における日系人移民の五大出身県の一つで、全米初の日系人州知事であるジョージ・アリヨシ（第3代ハワイ州知事）が福岡県築上郡（現豊前市）の出身であったことが縁で、1981年9月に福岡県とハワイ州が、双方とも初めてとなる国外自治体との姉妹提携を締結。

- ・人間社会学部の郝曉卿（元）教授、藤澤健一（現）教授がハワイ大学本校＝マノア校にVisiting Scholarとして在籍。岡本も複数回にわたり、マノア校を訪れ、学術交流を継続。2014年にハワイ大学分校のカピオラニ・カレッジにおける語学研修（国際交流部会主催、水野邦太郎元准教授が引率）を実施し、2018年には岡本雅享（現）教授が引率した公共社会学科の社会調査実習でマノア校の宗教学部、アメリカ学部教員等と学術交流。

- ・ハワイ大学マノア校は米国の中でも著名な総合大学であり、社会科学（社会学、政治学、経済学、心理学、地理学等）、人文科学（哲学、芸術、音楽）、教育学、医療技術、看護学・歯科衛生学、社会福祉学、自然科学（生物学）などの学部学科を擁し、福岡県立大学の教育や教員の研究分野とも幅広く対応

→本学教員・学生とハワイ大学マノア校との研究・教育交流を一層発展させる。

研究課題と成果

＜＜ハワイ大学マノア校との学術交流・教育連携の継続的発展＞＞

→ 今後、本学教員がUH Manoaの共同研究相手を探したり、学生が留学を考える際の参考になるよう、本学と関連する学部や学科、研究センター及びそれらに所属する研究者の概要をまとめた「ハワイ大学マノア校の概要」（計17頁の資料）を作り、附属研究所及び国際学術交流部会に提供

→ 以前、岡本が国際交流部会で立案した韓国短期研修を応用する形で、学生交流や文化体験学習などを主体としたハワイ短期研修を検討、UH ManoaのNICE（短期語学留学）programと合わせて国際交流部会に情報を提供

ハワイ大学 マノア校(University of Hawaii at Manoa)

大学概要

ハワイ大学マノア校は、1907年創立されたハワイ州ホノルルに位置するアメリカ合衆国の州立大学である。ハワイ大学システム（University of Hawaii System）には3つの総合大学、7つのコミュニティカレッジがあるが、マノア校は最大かつ最古のキャンパスである。99種の学部専攻、87種の修士専攻、59種の博士専攻プログラムを有し、ハワイ州が直面している課題に対処するための先駆的な研究を行っている世界クラスの総合大学である。



マノア校は、アメリカの陸・海・宇宙機構の補助機関としても機能している全米でも数少ない大学の1つであり、「The National Science Foundation（全米科学財団）」による研究費の上位60の公立大学にランクされている。カーネギー財団によって「The National Academy of Sciences」に分類されているマノア校は、海洋学、天文学、太平洋諸島およびアジア地域研究、言語学、がん研究、遺伝子学などの分野で世界に先駆けた研究を行っている、著名な大学である。

また、2018年には大学としてのアドミッションポリシーが再検討され、世界で最も多様なコミュニティと環境の中で、創造的で革新的なリーダーを育成することが掲げられた。

ハワイ大学マノア校	ハワイ大学で最も古く、規模の大きい4年制大学
ハワイ大学ヒロ校	海洋学・生物学などが盛んな4年制大学
ハワイ大学ウエストオアフ校	マノア校に次ぐ数少ない学士号が取得できる4年制大学
ハワイ・コミュニティカレッジ	ヒロ校とキャンパスや施設を共有する2年制大学
ホノルルコミュニティカレッジ	海洋学・自動車工学等のプログラムを有する2年制大学
カピオラニ・コミュニティカレッジ	料理学・ビジネス・観光学など選択科目も多い2年制大学
リーワード・コミュニティカレッジ	ハワイアンスタディ、エンジニアリングなども学べる
ウインドワード・コミュニティカレッジ	航空宇宙学など天文学が有名な2年制大学
マウイカレッジ	女性比率も高く様々な授業がある2年制大学
カウアイ・コミュニティカレッジ	ハワイ大学で最も小規模な2年制大学

マノア校の基本データ（2022年秋時点）

創立	1907年	総学生数	19,074人
男女比率	39：61	教員数	3,814人
学期	春学期（1月～5月初旬）、秋学期8月下旬～12月中旬）		
ポリシー	Maluna a'e o nā lahui a pau ke ola ke kanaka(全ての国は人によって成り立つ)		
所在地	University of Hawaii at Manoa 2500 Campus Road, Honolulu, HI 96822		

研究課題

＜＜ハワイにおける日系移民と先住民族、諸地域出身の移民によるミックス・カルチャーの研究：岡本担当＞＞

・ ハワイには数多くの神社や日系寺院があり、長いものは1世紀に及ぶ歴史を刻む。日系移民が北米大陸に建立した神社が戦後ことごとく廃絶されたのに対し、ハワイ諸島で存続している背景には、ポリネシアをルーツとするハワイ先住民族の文化・信仰が社会基盤にあるハワイアン文化と本来アニミズムである神道との親和性があるとみられる。

→「日系人」が身を置く、ハワイ社会の多様性と、その中での「日系人」の立ち位置、日系宗教の存続をかけた取り組みに視野を広げ、文献と現地調査を行う。

ハワイの日系神社・寺院



Izumo Taisha-Kyo Mission in
Hawaii



Hawaii Kotohira Jinsha & Dazaifu
Tenmangu



Shingon Shu Hawaii

日系人の神職がいなくなったマウイ島の金比羅神社：ハワイ先住民族が海神として祭り続ける

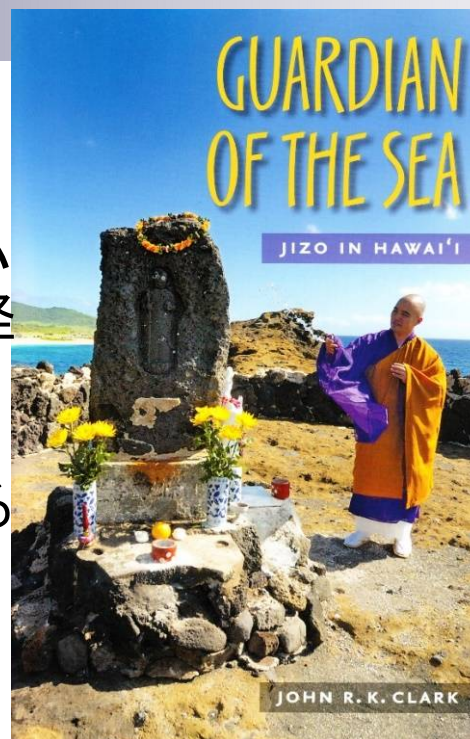
石神・民間信仰等の伝播・融合

・ハワイでは、日系人の移住以降、それまでハワイではなかった河童や貉(むじな)に似た妖怪の目撃証言が、ハワイ在住の白人の間で生じたり、地蔵が海難から守ってくれるGuardian of the Seaとしてサーファーの間で海辺に祭られるなど、非日系人の間に日系の文化や信仰が伝播したとみられる現象がある。

ハワイアンの聖地—ヘイアウ



神の島を臨むヘイアウ



Guardian of the Sea: Jizo in Hawaii by John C. Clark



OBAKE: Ghost Stories in Hawaii by Glen Grant



ハワイアンが信仰する神の石に沖縄出身の移民が祠を設ける



ハワイにおける日系移民と先住民族、諸地域出身の移民によるミックス・カルチャーの研究

19世紀末の英語の公用語化に伴い、ハワイ語を教育言語とする学校が閉鎖され、家庭におけるハワイ語使用やフラなどの民族的伝統も禁止された結果、ハワイアンの文化が衰退→20世紀半ばにはハワイ語で生活する人々がニイハウ島の200人のみにまで減少→米国本土の公民権運動や1970年代のハワイアン・ルネッサンス、先住民族の言語や文化の復権運動で先行していたニュージーランドのマオリとの交流、先住民族出身のワイヘエのハワイ州知事就任(1986年)などをへて、1980年代以降、ハワイ語やハワイアン文化の再活性化運動が急速に進む。

研究課題

ハワイアン(先住民族)の文化復興・ハワイ語再活性化運動の経緯と現状について、文献・現地調査で明らかにしながら、ハワイにおける多文化主義の理念を考察する。

現地調査: 2025年3月22日～4月1日



沖縄出身移民に関する史資料調査（担当 藤澤）

- ハワイにおける沖縄出身者は、歴史的にも現状でも、最大のエスニック集団のひとつ。石川友紀による社会地理学的な分析を筆頭に一定の研究蓄積
- 当該エスニック集団の指導者として比嘉静観（1887-1985）に着目
- 牧師、日本語学校校長、社会運動指導者として顕著な活動
- UHMハミルトン図書館所蔵史資料、およびフーバー研究所邦文デジタルベースの調査を実施
- 研究成果として「比嘉静観著作目録」を構成、現在作成の途次、近年中に公表予定

I. 研究の目的（池担当）

日本の神話や昔話には森羅万象、いたるところに八百万の神が宿るとする自然崇拝の考え方があるように、ハワイの信仰には自然崇拝が深く根付いている。伝統舞踊フラダンスの元になったフラ・カヒコ（Hula Kahiko）は宗教的な儀式でもあるとされる。フラで用いられる装飾品レイの材料には植物や花などが用いられ、そのルーツには自然崇拝が含まれている。研究分担者（池）はこれまで創造性に関する心理学研究を行っており、国内外で音楽、美術、芸術に関する学会発表を行ってきた。

本研究ではフラ・カヒコとレイに込められたハワイの人々の自然崇拝とその心理について調査し、フラが果たしている心理的意義について明らかにすることを試みている。

II. 方法

① 2024年3月25日から31日までオアフ島にて現地調査

予備調査（ハワイ大学マノア校の研究者や現地のフラ指導者との面談）、文献収集を行なった。

② 2025年3月24日から31日までオアフ島にて現地調査を予定

III. 結果と今後に向けて

初年度 2023 年度は関連文献を収集し、ハワイ大学マノア校の心理学者の中で連携できそうな研究者リストを作成した。主な文献として以下に列挙する。
Joseph Keawe‘aimoku Kaholokula et al (2021). A Cultural Dance Program Improves Hypertension Control and Cardiovascular Disease Risk in Native Hawaiians: A Randomized Controlled Trial、Camilla G. Wengler Vingnoe (2015) Living Aloha: Portraits of Resilience, Renewal, Reclamation, and Resistance、Chamaine I. Kaimikaura (2010) The Politics of Cultural Preservation: Communicating Identity, Resistance, and Empowerment for Hawaiians in a Southern California HULAHALAU など。

また、予備調査でハワイ大学マノア校の研究者Michel Mohr博士と対談し、同校の心理学研究者を紹介いただいた。さらに現地のフラ指導者やハワイ映画監督との面談を経て、調査協力者を募る際のフィールドを開拓した。

2024年度はハワイ大学マノア校の心理学研究者林健太郎博士と対談し、共同研究に向けてさらに進めていく予定である。